

山桜の里 戸赤

「ふくしまっ子」のべ11回
 542人受け入れ

川底が一枚岩で危なくないこの川は安心

野菜収穫も川遊びも最高!



何年来ても楽しい。野菜収穫ができてうれしかった。 **声**

自分たちで打ったそばがおいしかった。アレルギーの子供たちにも対応していただき、うれしかった。 **声**

大人も子供に戻った気分が楽しかった。 **声**

子供が屋外で遊べなかった東日本大震災の経験をもとに、自然体験活動などを支援する県の「ふくしまっ子」事業で、今年延べ11回542人をやまぐら学校で受け入れました。商工会事務局との連携で会津鉄道(株)が窓口となり、県内の子供いる団体が参加したものです。

地元の受け入れには都合のつく人全員が協力しました。川遊びの監視、キャンピング、焚き火、遊歩道の草刈り、まかない、そば打ち講師の手配、各種体験の準備など、相應の収益も確保されました。



川遊びができないときはスイカ割り

月日	利用者名	宿泊	川遊び体験	そば打ち体験	星空体験とキャノンファイヤー	野菜収穫とカレイ作り体験	玩具作り
7月19日	M認定年長児	38	38	38	38		
7月19日	M館年長児	23	23	23	23		
7月23日	A子ども会		10			15	
7月24日	Kグループ		7			7	
7月26日	T太鼓T会		17				
7月28日	A幼稚園年長	16	16	16	8		
7月30日	海の子山の子		35				
7月31日	Nグループ		11			11	11
7月31日	Mサッカースポ		27			27	
8月6日	K	8	8		8		
8月23日	Kグループ	10	10	10		10	
	小計	95	202	87	77	70	11
	合計				542		



渡部さんの畑でナスの収穫体験



金子牧場の出張チーズ作り体験

時間の流れがゆっくりで、また来たい。 **声**

【木地の学習No.70】川連は古くからの漆器産地であり、土着の木地師であるが、この木地達とは別に、一人だけ、川連で氏子駈を受けている「惣左衛門」がいる。栗原郡の利平太が代印をしているが、この利平太も信州方面の木地師であることを思うと、川連の惣左衛門も信州とのつながりを持っていたものだろう。その関係で他の川連土着の木地師も氏子駈に応じたものであろうか。青森県、岩手県は一度の氏子狩もない帳外地帯であるが、盛んに木地業が行われていた。岩手県二戸郡浄法寺町に天台寺という古刹がある。もともと浄法寺塗は、この寺の什器、オヤマゴキを作るために起こったとされているが、はっきりしたことは分からない。しかし中世までさかのぼることは間違いないだろう。浄法寺町、安代町を流れる安比川流域に木地生産地が存在していた。現在ではわずかな生産があるだけだが、かつては盛んに木地業が行われていた。…青森県津軽の木地業については、元和八(1622)年、山形最上家が改易になったとき、家臣が津軽家を頼って黒石市の浅瀬石川の流域に住みつき、その時、一緒に来た木地師が津軽木地師の始まりだともいわれている。そしてその地が山形村といわれてのは、そのような訳からだという。また一方、大鰐には、古くから居木地師もいたという。…この外にも山形県小国町周辺にも、かなりの帳外の木地小屋があった。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

花豆

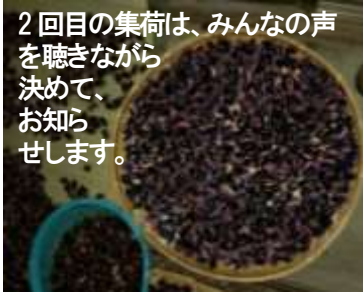
栽培

い。したもるで
譚。たものだけ

今年は大粒のも
のが多く良い年
だと思つ。もう
少し天気が続い
てくれないとせ
つかくのものが
よく乾燥できな
い。まだなつて
いるので、でき



ジュースやお菓
子のお楽しみ付
きせんこう花火
大会。天気にも
恵まれ、お盆な
らではの催しと
なりました。



2回目の集荷は、みんなの
声を聴きながら
決めて、お知ら
せします。

花豆パイの原料 第1回目集荷
10/14
午前10時
集会所



(8/14)青少年健全育成事業と区の共催「せんこう花火大会」
毎年の常連さんや久しぶりの顔など約40人が集まる

れきの
ひとコマ

新しい橋と今の道の間、
広く使えるといいね



川が変わって道路が良くなる

有効利用できるようにならばありがたい残地



星輝夫さん

ちょっと
いっぴく

【27.11.24 温泉保養で】

軽費節減の
ため、当分
の間、機関
誌は奇数
月発行とな
りました。

(ストーリー性のある村づくりのために[No.38] 下郷町五百地遺跡からは、小型壺五個体(ベンガラ内蔵一個体)、鉢形土器一個体が出土しており、壺型土器には骨片の内臓が確認されて二次埋葬に用いられたことが考えられる。また六点の管玉が出土しており、細型一点以外は全て破碎されている。五百地遺跡では南御山Ⅰ式期が中心で、南御山Ⅰ式とそれに続く川原町口式を若干出土している。窪田遺跡においても故意に破碎された管玉があり、山都町金山遺跡や金山町宮崎遺跡と同様である。(…) 田島に近接した栃木県日光市の中棒遺跡からは野沢Ⅰ式の小型の丹壺が出土しており、定性分析の結果ベンガラであることが判明している。五百地のベンガラ内蔵の壺とほぼ同じ時期であり、男鹿川を遡り山王峠を越えて会津に入る弥生時代のルートが浮かんでくる(…)。中三依の中棒遺跡から山王峠を越えて田島の羽塩地区の上ノ原遺跡の間には弥生時代の遺物は発見されていない。一帯は現在でも水田には不向きな畑作地帯であり、このような山間地帯においては水田ではなく、陸稲や稗・粟などの雑穀の栽培も考慮すべきであろう。下平遺跡からはかつて吉田光之が扁平な片刃の磨製石斧を採集しているが、今のところ弥生時代の石器の発見は僅かである。(「下郷町史-第7巻通史編〈発行・下郷町〉」より出典(続く))